

明日のターゲット

身近な Z 世代のリアルに迫る ②エシカル編

2021.1.25

Resonance Lab.

COPYRIGHT © 2021 SE&BA

## 身近な Z 世代のリアルに迫る ②エシカル編

今号では前回に引き続き「身近な Z 世代のリアルに迫る」をテーマにエシカル（消費や環境問題）に関するアンケート結果から考察をしていく。Z 世代の特徴として“エシカル消費や環境問題への関心が高い”ということがよく挙げられて

いる。しかし身近なところに目を向けると、日本では欧米に比べると関心がそれほど高くないのではないかと疑問を抱き、実際の認知度や具体的にどのような取り組みを行っているのかなどについて調査を行った。

### 身近な Z 世代のリアルアンケート 〈②エシカル編〉

※入社 1 年目 2 年目の社員（1994 年～1998 年生まれ）対象（回答者数 40 名）

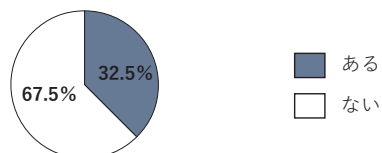
#### Q1 エシカルという言葉を知っていますか？



#### Q2 どのようなことがエシカルなことだと思いますか。（自由記述より一部抜粋）

「周りの環境・自分が関わるものごとが、なるべく健康的でいられるような方法を選ぶこと」  
 「法律などのルールではなく、みんなが正しいと思っていること」「直訳したら“倫理的な”という意味だが、“うしろめたさがない”のような感覚でとらえている」  
※上から順に、Q1で「よく知っている」、「説明できないが知っている」、「聞いたことはある」と回答した人による回答

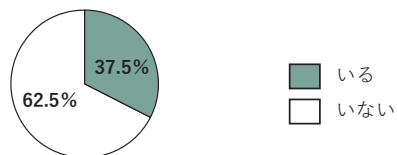
#### Q3 日常生活でエシカルを意識して行っていることはありますか？



#### Q4 Q3で「ある」と回答した人への質問：具体的にはどんなことですか。（自由記述より一部抜粋）

飲料はなるべく持参して、ペットボトルの消費を減らす。ゴミの分別を心掛けている。衣類をゴミに出す前に、フリマアプリで必要としてくれる人を探す。エコバックを使う。服や靴などは長く使える・使いたいものを選ぶ。地産地消や地元の食材を買って地域を応援する。

#### Q5 身近な人で、エシカルを意識した生活をしている人はいますか？



#### Q6 Q5で「いる」と回答した人への質問：その割合は肌感覚でどのくらいですか。また、その人はどんなことを意識して生活していますか。（自由記述より一部抜粋）

多くは無いが何人かはいる。ビーガン・ベジタリアンになった（海外の友達、欧米の文化に影響を受けている日本人等）。環境ボランティアサークルへの所属。フェアトレード品を買う。

#### Q7 エシカルな活動をしている人や団体、企業、商品で思い浮かぶものがあれば具体的に教えてください。

複数人が回答：スターバックス、セブンイレブン、無印良品、いろはす、イオングループ、パタゴニア、モノファクトリー  
 その他：LUSH、THE BODY SHOP、ナチュラルローソン、CASA FLINE、マザーハウス、ステラマッカートニー、リネーム、ルカモ、食べチョク、和える（aeru）、やすいあきひろ、戦慄かなの、等

## Q1：過半数に「エシカル」という言葉が浸透

2014-2016年のスーパーグローバルハイスクール制度により、一部高校の課程でエシカル・フェアトレード・SDGsなどを学ぶ機会があったことや、小学校の副教材、中学・高校の英語・家庭科・社会などの一部の教科書でもこれらの項目が取り上げられる等、学校教育において知る機会があったことも大きく影響しているのだろう。これは、アンケート対象のZ世代が学校教育を受けていた時期とも重なる。

※1 国際的に活躍できる人材育成を重点的に行う高校を文部科学省が指定する制度

## Q2・Q4：エシカルを身近な活動として捉える層は約1/3

「ペットボトルの消費を減らす」「ゴミの分別」「服や靴などは長く使える・使いたいものを選ぶ」など「周りの環境・自分が関わるものごとが、なるべく健康的でいられるような」自身にも関係のあることとしての解釈が多くみられた。

## Q6：メディアに取り上げられるような積極的Z世代も一定数存在

「ビーガン・ベジタリアンになった」や「環境ボランティアサークルへの所属」など自身の取り組みよりも専門性の高い取り組みが挙げられた。また、その割合は友人などに「多くは無いが何人かはある」という回答が多く、少数派だが積極的にエシカルを意識した活動に取り組む層もいるようだ。

## Q7：特別な企業活動というよりは、身近なブランドから

スターバックス、セブンイレブンなど日常的に使う店名が多く挙げられた。身近な店を利用する際に、ポスターや商品のラベルなどの記載でその取り組みを知る人が多いようだ。

## アンケートから見えてきたこと〈②エシカル編〉

身近なZ世代にとってのエシカルとは、専門性の高いことに取り組むということだけではなく、日常的に出来ることをするスタイルが浸透しており、たしなみ化しているといっていだろう。日常的であるからこそ選択肢も多く、その中で

自身の生活スタイルに合わせて何を取り入れるかをそれぞれの価値観で選択しているため、その取り組みの幅には個人差がある。エシカルという言葉に含まれる意味の幅が広いように、**一人一人が意図して選んだそれぞれのエシカル**がある。見栄ではなく必要だと思うことを、出来ることから選択していくことは持続可能な取り組みとして効果を発揮するだろう。

文章：大島 萌



※イラストはアンケート回答者などの特定の個人を表現したものではありません。

イラスト：松島由林

## かとも picks

### エシカルを「たしなむ」

【たしなみ(嗜み)】=①このみ ②心がけ(広辞苑より)

地下鉄で席を譲ることや、公衆でごみ拾いをすることはバブル臭の強い私には少々気恥しい。いい子ちゃんぶってると思われないかと深読みしてしまう。「良いことをしている人」「良い人だといわれたい」が透けて見えることが怖いのだ。しかし松葉杖の人には迷わず席を譲るし、ベビーカーの子供が何かを落としたのに気が付けば追いかけて渡したりすることに迷いはない。それは「良いこと」以前に「当たり前のこと」だからだ。

身近なZ世代は「エシカル」を「良いこと」よりも「当たり前のこと」と捉えていることを感じる。そして何を「当たり前」としているかに個人差があるようだ。レゾラボは、“それぞれにとっての「当たり前」”を「たしなみ」と捉え、時代と環境によって変化する様に注目していく。